

TOPIC 1 | 省エネ性能表示で素案、外皮性能や目安光熱費をラベル表示

国土交通省は、「第2回 建築物の販売・賃貸時の省エネ性能表示制度に関する検討会」を開催し、新たな表示ルールの素案を示した。

同検討会は、建築物の販売・賃貸時における省エネ性能の表示を推進するために、表示ルールや制度の施行に向けた環境整備の進め方を検討している。第2回検討会では、具体的な省エネ性能の表示事項・表示方法の素案を提示。原則、ラベルにより省エネ性能を表示することとし、一次エネルギー消費量及び外皮性能を基本構成とするラベルや、推奨する目安光熱費を追加して表示するラベルなどのイメージを示した。

住宅の一次エネルギー消費量については、再エネを除くBEI(基準値に対する設計値の割合)及び仕様基準または誘導仕様基準への適合に応じて評価し、星の数で多段階表示する。今後さらに、BELSの多段階表示(星の数)などについて、分かりやすさの観点から統一を図った上で、

削減率とセットで表示することなどを検討する。

一方、住宅用途については外皮性能に関する表示ニーズの大きさから、住宅の外皮性能(U_A 値または η AC値に応じた評価または仕様基準もしくは誘導仕様基準への適合状況)に応じた評価を多段階表示する。

ラベルを表示する時期・場所については、販売・賃貸の広告を行う際に、新聞・雑誌、インターネットなどの広告中に建築物の省エネ性能を掲載する、とした。また、新築建築物の省エネ性能の表示は、建築確認済証の交付後に行うものとするとしている。

住宅の省エネ性能を示すラベルのイメージ
(目安光熱費を表示する場合)



TOPIC 2 | 2×4工法でも建築パネル化が進展へ

2×4工法の分野で建築パネル化が進みそうだ。在来軸組工法の大型パネルを推進するウッドステーションと、2×4工法のコンポーネント事業でトップシェアのウイングが、2×4工法でサッシや断熱材まで組み込んだ「建築パネル化」を推進する目的で業務提携を締結した。

ウッドステーションは2018年に起業し、在来軸組工法の分野において大型パネルの受託加工事業を展開している。大型パネルは、柱、梁に加えて断熱材、サッシなども含めて工場を組み立てたもので、これを現場に搬送し、クレーンで組み上げることで、一日で上棟まで完了することができる。

今回の提携では、ウッドステーションが在来木造の分野で蓄積してきたデジタル化、情報処理技術を2×4工法

の分野でも応用する。

両社がまず進めるのは、パネル生産のサテライト工場の増設だ。ウッドステーションは「大型パネル生産パートナー会」を組織し、地域の木材・建材事業者へ技術供与を行い、大型パネルの生産拠点の拡大を進めている。これと同様に、2×4工法の分野においても、事業者を募り、在来軸組工法、2×4工法、それぞれに対応する兼用ラインを備えた生産拠点を全国各地に増やしていく。

また、2023年3月までに、2×4建築パネルによる実棟建設も計画している。「大型パネル生産パートナー会」の会員で、2022年夏に稼働を開始した千葉県のパネル生産工場でも2×4建築パネルを製造し、千葉県内で上棟する。

今知りたい情報がここにある
住生活産業のための
情報プラットフォーム

Housing Tribune Online premium
ハウジングトリビューン オンライン プレミアム
https://htonline.sohjusha.co.jp/premium/